

市内の現状と警察署の取り組み

悲惨な交通事故をなくそう



昨年千葉県の交通事故死者数が、全国ワースト1位になったことを受け、事故による犠牲者を減らすことが、千葉県警察の急務となっています。

市内での交通事故の現状とその特徴

平成30年中の千葉県内での交通事故件数は1万7、374件で、186人が亡くなっています。その内65歳以上の高齢者は97人で、全体の52%を占めています。市内では171件の人身事故が発生していて、4人が亡くなり、その内3人が高齢者です。昨年中も市内では、5人の高齢者が死亡する事故が発生し、高齢者の割合が高い傾向にあります。

市内で起きた交通事故の発生状況についてくわしく見てみると、事故の約6割が旭市民によるもので、自宅から近い場所できているのが特徴です。その

多くは通勤や買い物など、普段走り慣れている道路での事故が多い状況です。

市内では交差点での事故が多く、全体の約53%を占めています。これは県全体での割合よりも高く、旭市における事故の特徴ともいえそうです。事故を起こしたときの違反の内容は、信号無視の割合が高く、一時停止と合わせる、その割合は県全体の2倍にもなります。

旭市は公共交通機関が少ないため、高齢者の免許保有率が高く、自動車の保有率も高い状況にあります。車と歩行者による事故に比べ、車同士の事故が多いのも特徴です。

一方で市内の免許の返納者数は増加傾向にあります。テレビ



インタビュー

みんなで作る交通安全のまち

旭警察署
永山朋之交通課長

旭警察署では、高齢者が安全に運転できるようさまざまな取り組みを行っていますが、さらに交通事故を減らすには、より安全に運転できる環境や、車がなくても生活ができる環境を整えていく必要があると思います。そのためには、警察や行政だけでなく、社会全体で対策を考えていかなければなりません。市民と警察と市が手を取り合って、交通安全のまちをつくっていく必要があります。



交通安全を呼び掛ける啓発活動

旭警察署では交差点での事故を減らすため、交差点での取り締まりなどを強化しています。まち中で取り締まりをしている姿を見てもらうことで、危険運転を抑制して事故防止につながるようにしているそうです。

また高齢者への積極的な啓発活動にも力を入れています。反射神経テストなどを体験しても

交通事故をなくす旭警察署の取り組み

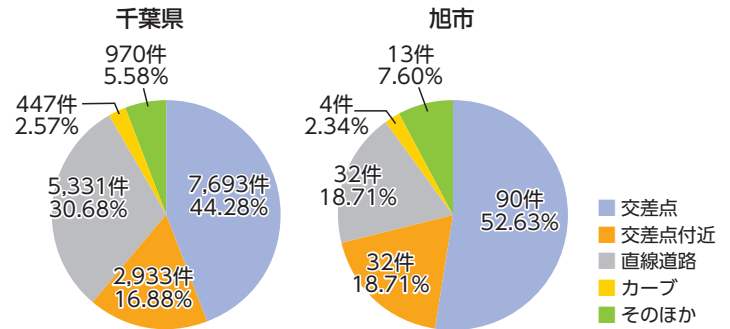


街頭で行われた反射神経テスト

や新聞で報道される、高齢ドライバーによる重大事故のニュースが、少なからず影響しているのかもしれない。

らうことで、加齢による体の衰えに気付いてもらえるよう活動しています。今後は安全運転サポートカーの試乗体験など、交通安全の意識を高めてもらえる取り組みも計画しています。

平成30年道路形状別事故件数



車を運転する高齢者122人に聞きました

1. どのくらいの頻度で車を運転しますか

	人	割合
ほぼ毎日	96	78.7%
週に数回	19	15.6%
月に数回	3	2.5%
ほとんどしない	0	0.0%
全くしない	4	3.3%
合計	122	100.0%

2. 運転に自信がありますか

	人	割合
非常にある	18	14.8%
まあまあある	85	69.7%
あまりない	18	14.8%
ない	0	0.0%
未回答	1	0.8%
合計	122	100.0%

3. 運転していてヒヤリとした経験はありますか

	人	割合
はい	95	77.9%
いいえ	23	18.9%
未回答	4	3.3%
合計	122	100.0%

皆さんヒヤリとした経験があるんですね

旭市市民生活課
交通安全対策担当 増田彩

4. ヒヤリとしたことはどのようなことですか

	人	割合
注意散漫	25	20.5%
信号や車、歩行者が見づらい	24	19.7%
追突しそうになった	20	16.4%
右左折時の歩行者や自転車との接触	14	11.5%
ウインカーの出し忘れ	7	5.7%
ハンドルの操作ミス	5	4.1%
ペダルの踏み間違え	4	3.3%
その他	17	13.9%
未回答	6	4.9%
合計	122	100.0%